

全国 検数労連

第832号

〒144-0052 東京都大田区蒲田5-10-2 日港福会館5階

Tel 03(3733)5621 Fax 03(3733)5622

メール roren@knsu.jp

ホームページ http://knsu.jp/

全国 検数労働組合連合
書記局

4月15日(水)第5回中央港湾団交

26港湾春闘仮合意。妥結については各単組の賃上げ回答を見極めたうえでの判断とするため、中央港湾団交は長期休会を確認。



【第5回中央港湾団交】

4月15日(水)芝浦サードビースセンターで、第5回中央港湾団交を開催しました。

前回の交渉終了後、全国港湾と港運同盟、日港協は20日(月)以降無期限の時間外拒否行動の回避に向けて事務折衝を重ねてきました。その結果、第5回中央港湾団交で日港協側がさらに踏み込んだ修正回答を提示し、全国港湾と港運同盟は日港協の回答を受け入れたことから基本合意し、仮協定となりました。正式な妥結については、労側として『適正料金収受の状況を判断するには、各単組の賃上げ状況を確認する必要がある』として、次回交渉を4月28日(火)とすることを労使確認しました。また、全国港湾と港運同盟は、4月28日(火)までの期間を、適正料金収受状況、各単組の賃上げ回答検証期間と位置付け、スト

ライキについては体制を維持しつつ、長期延期としました。

第5回中央港湾団交の経過を受け、検数労連としても現時点では両協会から回答の提示はされていませんが、港湾産別の後押しを受け引き続き組合要求に沿った賃上げ回答、諸労働条件の改善を含め、全体の底上げを目指し全国団結で運動を進めて行きます。

26春闘オルグ(九州日検)開催

4月1日(水)18時よりサンエール鹿児島中研修室3(鹿児島市内)にて、九州日検中央オルグが開催され、検数労連より山田副委員長、神保副委員長、日検中央より岡田書記長が参加しました。また、現地より支部執行部および鹿児島・志布志の2分会より15名が参加しました。

山田副委員長からは全国港湾産別中央団交の経過とストライキも含めた今後の闘い方や、放射線量検査に関する経過、港湾複利基金の現状など細かい説明がありました。

神保副委員長からは産別交渉のしくみと検数労連26春闘交渉のリアルな交渉経過を中心に有額回答指定日における協会側の「未回答」に対する怒りの共有と、大幅賃上げに向けた意思統一を図りました。

現在、物価高で組合員の約7割が生活苦を訴える中、「残業頼み」から脱却する「生活給(38,000



円)の確立が今春闘の最大の焦点であると強調しました。協会側が中東情勢などを言い訳に回答を引き延ばしているなかで、3月には国交省と日港協の連名で荷主へ「価格転嫁の要請」が発出されており、「原資がない」という経営の責任回避はもはや通用しないことが強調されました。また、港が広範囲に点在する九州では、強固な連携が不可欠であり、無関心層も巻き込み「回答引き延ばし」を許さない空気を現場から作るなど、対話の重要性が話されました。我々には90%超のスト権があります。九州支部の力強い団結ひいては全国の団結を最大の武器に、要求完遂まで共に闘い抜きましょう！

次回交渉: 第7回検数労連26春闘 4月24日(金)14時30から!